

# けがき

医療の原点は思いやり

2022  
NOVEMBER

16  
vol.



特集

手術支援ロボット  
「ダヴィンチ」って、どんなもの？



当院ではロボット支援手術の導入に向け、8月にロボット支援手術センターが完成し、10月に最も先進的な内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」による手術を開始しました。幅広い分野でたくさんの業績を残したルネサンス期の偉人レオナルド・ダ・ヴィンチに由来する手術支援ロボット「ダヴィンチ」の特色を紹介します。

### 傷口が小さく、術後の回復が早い治療法

内視鏡下外科手術は、患者さんの体に小さな穴を開け、内視鏡というカメラを挿入し、体内の様子をモニターで行う手術です。開腹手術に比べ体の負担が小さいため、患者さんの早期回復や早期社会復帰などが可能になりました。

「ダヴィンチ」手術も、内視鏡下外科手術と同じく、患者さん

の体に小さな穴を開けて行います。大きく異なるのは、医師は操作ボックスの中に座り、患者さんの体内に挿入したロボットアームを操作する点です。

遠隔ですが、解像度の高い映像を見ながら行うので、直接手術と同様の感覚で器具を操作できるのが特色です。

#### 患者さんにとってのメリット

①開腹手術に比べ、内視鏡手術と同様、出血量は一般的に少量で済みます。

②手術機材を挿入する穴は小さく、8～12mmです。

③傷口が小さいため、術後の痛みが比較的少ないと言われています。



④術後の回復も早く、入院期間も短いことが多いです。

## 呼吸器外科、産婦人科、消化器外科、泌尿器科で導入予定

当院でのダヴィンチを用いた手術は、10月に呼吸器外科で開始し、順次、産婦人科、消化器外科、泌尿器科でも導入いたします。各診療科担当医、麻酔科医、手術室スタッフがチームをつくり、先進施設の見学など、導入に向けて準備を進めてきました。

実際に施術する医師は、これまでに開胸、開腹や内視鏡手術にたずさわり、経験を積んできた熟練者です。より患者さんの負担が少ない手術を身につけるため、ダヴィンチ治療の操作訓練も積んでいます。

ダヴィンチ手術は、すべての症例に適用するわけではありません。当院では肺切除や婦人科手術（良性子宮全摘）、肝切除、すい臓切除などから導入していきます。手術を受ける患者さんは、担当医とよく相談し、ダヴィンチ手術や開胸開

腹手術、内視鏡手術など、ご自身に最も適した治療法を理解し選択することが大切です。

かかりつけ医の先生方にも、今後、様々な地域の研究会などで、施術の様子や診療実績を発信してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。



第2医療部長  
兼消化器外科部長

まつもと けいご  
**松本 圭五**

## 手術支援ロボット「ダヴィンチ」のしくみ



遠隔で操作する医師

「ダヴィンチ」は手術用ベッド近くに設置した①パシエントカート、②医師が遠隔で操作するサージョンコンソール、③手術をサポートする看護師等が使用するモニターや電気メスを載せたビジョンカートで構成されています。

パシエントカートの4本のロボットアームに、カメラと専用の手術用鉗子を取り付け、医師は3Dモニターをのぞいて手元のハンドルで操作して手術します(④)。

## 手術センター 拡張



患者さんが安心して質の高い手術を受けられるようチームで取り組みます

### コロナ禍でも年間約4,500件の手術を実施

当院の手術センターではコロナ禍でも年間約4,500件の手術が行われています。できる限り早く元の生活に戻ることを目標に、質の高い安全な手術が提供できるように努めています。

当院の特徴として、腹腔鏡や胸腔鏡手術など体への負担の少ない鏡視下手術を積極的に行っていますが、従来の鏡視下手術をさらに進化させ、患者さんの負担がより少なくなるよう開発されたダヴィンチシステムによるロボット支援下手術も始動しました。

また、病状により体への負担が大きい手術を受ける方や合併症のある方、高齢者など、手術に対するリスクが高い患者さんも安心して手術が受けられるように、管理栄養士やリハビリテーションを含めたスタッフがケア及びサポートを行う周術期管理チームが活動しています。

手術は執刀医及び助手が行いますが、他にも、メスなどの手術に使用する器械を手渡しし、手術をサポートする看護師、手術に伴う体へのストレスから患者さんを守りつつ全身の状態を管理する麻酔科医、患者さんのケアを行う看護師に加えて、臨床工学技士・放射線技師・薬剤師など様々な職種のスタッフがチームとして円滑に連携することで、初めて質の高い手術医療が提供できます。

私は本年度より手術センター長を務めることになりましたが、各職種のスタッフがより円滑に連携・協働できる環境づくりを行いたいと考えています。また、より多くの患者さんに手術医療を提供し、緊急手術にもより迅速に対応できるように、手術センターの体制を強化することにも取り組んでいきます。患者さんが安心して質の高い手術医療を受けることができるように、スタッフ一同今後も努力してまいります。

第3医療部副部長

兼麻酔科部長兼手術センター長

やまぐち

まさかず

山口 昌一



周術期管理チームメンバー

## 周術期管理チーム

### 安心して手術を受けられるよう寄り添います

手術室看護師 たかだ ゆうき 高田 佑紀

患者さんの手術が決まった時から手術後まで様々な形でサポートいたします。手術後は、周術期管理チームとして麻酔科医、薬剤師と協力し、痛みや手術体位による影響の有無や術後回復の妨げとなる合併症予防のために訪問させて頂いています。安心して手術を受けられるよう、私たち看護師が寄り添いますので何でもご相談ください。



### 社会復帰を見据え、最大限にサポート

理学療法士 くぼ こうせい 久保 光正

周術期理学療法の主な目標は、術後にできるだけ早く日常生活動作ができるようにし、社会復帰につなげることです。そのため、術前から呼吸訓練や体力強化を行い、術後は呼吸訓練に加え、患者さんの状態に応じて早期離床、基本動作や生活動作練習を行います。周術期の段階から社会復帰を見据え、最大限のサポートをしていきたいと思っています。



### 血液データの測定や麻酔器の管理で患者さんの状態を把握

臨床工学技士 きたがわ たつき すずき まりな 北川 樹、鈴木 茉里奈

私たち臨床工学技士は、手術室で麻酔科医師の業務のサポートとして患者さんの状態を把握するために、血液データの測定や麻酔器の管理などを行っています。PCAポンプと呼ばれる術後鎮痛を緩和する機械の保守点検に関わります。これからもチームの一員として、手術を安全かつ円滑に行えるように業務に携わっていきます。



### 術前、術後を栄養面からサポート

管理栄養士 きたぐち かおり 北口 加央里

周術期管理チームの一員として、全身麻酔下で手術を受けられる患者さんの栄養管理を行っています。術前に麻酔科外来にて栄養評価を行い、必要時には術前からNST(栄養サポートチーム)も介入できる体制です。術後、早期に経口摂取が開始でき、心も体も元気になれるよう栄養面からサポートさせていただきます。



### 術後の辛さを薬剤で軽減するお手伝い

薬剤師 かたぎり たかし 片桐 崇志

薬剤師は患者さんの薬剤、アレルギー歴を把握し、手術前後に中止・再開を必要とする薬剤の確認も行っています。また、周術期管理チームとして、手術後の痛みや吐き気、痒みなど患者さんそれぞれの症状に合わせた薬剤の使用を医師に積極的に提案し、できるだけ辛い症状を減らしていきたいと思っています。





地域医療  
連携室  
だより

# やけど、乳房再建、がん治療後のむくみなどに専門性の高い治療を提供

形成外科部長 松下 友樹 まつした ゆうき



顔の腫瘍を摘出する形成外科チーム

当院形成外科は常勤医5名で診療を行っており、磐田市を含めた中東遠医療圏の形成外科疾患は当院で治療を完結できるように努めております。

形成外科は、まだまだなじみの少ない診療科であると思います。診療内容は多岐にわたり、アザ・ほくろ・こぶなどの体表のできものや、けが・やけど・傷跡、なかなか治らない傷（褥瘡・潰瘍）など日常的に誰もが経験するものが中心となります。また、こどもの生まれつきの体表の異常（先天異常）や、顔や手の骨折、皮膚がんに対して、専門性の高い治療も行います。さらには、外傷や様々ながんで失った組織を修復する高難度の手術も行います。具体的には手指が切断した場合の再接着、乳がんて失った乳房の再建などです。他には加齢と共に起こるような眼瞼下垂症の手術や、シミなどの美容領域のレーザー治療も行います。

当科では形成外科疾患ほぼ全ての診療が可能ですが、やけど治療、乳房再建、がん治療後のむくみの治療など、特に専門性の高い治療を提供できます。

これらの共通していることは、患者さんの見た目（整容性）と動き（機能性）の両方の改善を目指し、患者さんの今後の生活の質をサポートすることです。それが形成外科にとっての重要な役割となります。それぞれの患者さんと十分にお話をして、1人1人に適した治療方針（治療のゴール）を決定するように心がけています。

特別な理由がない限り診療をお断りすることはありません。急なけがなどでも、お気軽にいつでもご相談ください。地域の皆様が少しでも幸せに暮らせますように、微力ながら尽力させていただきます。



形成外科部長 松下 友樹

認定資格

- ・日本形成外科学会専門医
- ・日本形成外科学会領域指導医
- ・形成外科レーザー分野指導医
- ・スキンバック摘出・保存講習会修了
- ・日本熱傷学会専門医
- ・日本創傷外科学会専門医
- ・ABLS(米国熱傷学会)プロバイダー
- ・乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師

# 院内日記

磐田市立総合病院ニュース

## 掛川西高等学校の生徒さんが、病院長にインタビューを行いました

8月24日(水) 掛川西高等学校の2年生4人の生徒さんが夏休みの総合的な探求活動として、医師の偏在や地域医療に関して、鈴木昌八病院長にインタビューを行いました。

病院長からは、医師や診療科の偏在状況問題について、歴史的な背景も交えて説明し生徒さん達がメモをとりながら真剣に聞いている姿が印象的でした。

生徒さんからは、「今回学んだことを周りの人に発信し、多くの人に医療に対する関心をもってほしい」「今後も静岡の医療問題について深く学び改善につながるように一生懸命探求に取り組みたい」などの感想が聞かれました。

病院長の感想:「医師不足や偏在問題に関連する資料を使い、意見交換できたので理解が深まったものと感じています。若い人の考えを聞く機会が持てて新鮮で楽しい時間でした。今回は掛川西高生でしたが、多くの高校生がこれからの時代の医療に関心を持ってくれることを願っています。」

今後も若い世代に、医療に関心を持っていただける機会を増やしていきたいと思います。



## 御厨(みくりや)交流センターで 出前講座開催!

7月20日(水) 御厨交流センターで、当院臨床検査技師の外波山技師が「採血結果はどう見るの?」をテーマに出前講座を行いました。

見る人が見れば解る採血結果ですが、人間ドックや健康診断の結果をなんとなく見ている方も多いのではないのでしょうか?

測定するための採血後の処理方法、各採血項目の意味や基準値、予防のための対策等をわかりやすく説明しました。

人間ドックや健康診断を継続して受けていただき、早期発見・早期受診や生活習慣の改善に繋げていただきたいと思います。



## iwatagram

職員の特技や趣味を紹介します



宮田 竜馬 みやた りょうま

看護師

休日はヒラメを求めて海へ!!けれどもヒラメは釣れません。そもそも魚が釣れません…。



#angler #lure fishing #ヒラメを釣りたい #釣り好きな人と繋がりたい #みんなと釣りに行きたい #海の事故には気をつけて

作ってみよう!!

# ハッピーレシピ

NO.16

総量

エネルギー 470kcal たんぱく質 13.2g

脂質 14.5g 炭水化物 65.2g

食塩相当量 5.3g

(出来上がり大さじ1杯の食塩相当量は0.4gです)

## 材料 作りやすい分量

・根深ねぎ 2本

調味料

- ・味噌 大さじ4杯
- ・みりん 大さじ2杯
- ・酒 大さじ2杯
- ・しょうゆ 小さじ1杯
- ・おろし生姜 小さじ2杯

・糸かつお 4g

・ごま油 大さじ1杯



## ネギ味噌

作り方

- ① 根深ねぎ2本を小口切りにする。(青い部分まで)
- ② フライパンにごま油を入れ、①を加え炒める。
- ③ しんなりしたら調味料をいれ煮つめる。
- ④ 火からおろし、糸かつおを混ぜる。

(料理例)

- ☆ おにぎりに小さじ1杯のネギ味噌を塗りオーブントースターで焼く。
- ☆ 厚揚げに大さじ1杯程度のネギ味噌・チーズのをせオーブントースターで焼く。



当院管理栄養士

色々な料理に応用でき便利です。万能調味料ですので塩分を調整し、使用してください。  
冷蔵庫で1週間程度保存が出来ます。



## 有熱者待機室について

新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、正面玄関前に発熱患者の待合室を設置しました。待合室は、浮遊物等を室外に流出させないため全室を陰圧とし、待合室のほかに、専用トイレ、診察室と検体を採取する検体採取室を設置しています。

当院を受診する患者さんで、受診当日に発熱してしまった方をこちらの待合室にご案内し、検査等を実施し安全を確認するまでの待機室として使用するほか、入院が必要となった患者さんで、入院前検査で新型コロナウイルスに感染していることが判明した方の待機室として使用しています。



## 磐田市立総合病院

〒438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

TEL:0538-38-5000 FAX:0538-38-5050

<https://www.hospital.iwata.shizuoka.jp>



過去の「けやき」  
はこちら



インスタグラム  
はこちら



フェイスブック  
はこちら